



身近な水辺の外来種問題

～マイナーな国外外来種の水生植物～

各市町村主催の人気イベントと言えば「夏の水生生物観察会」で、内水面試験場の研究員は講師として招かれ、今では夏の風物詩となっています。毎年、ご家族の参加者が多く、親の制止を振り切って、河川に入り、夢中になって網を振り回している子供たちの姿がとても印象的です。

このようなイベントは身近な河川に興味を持ってもらえる体験となりますし、水産や自然関係の業界に入るきっかけ作りになると思っております。イベントを通じて、「別の川に採集に行ったよ！」「あの河川では、こんなのが釣れた！」「近くの川に行くのが楽しい！」などのような報告が聞けるのは、本当に嬉しく思います。

イベントに参加して思うことは、北米原産のオオクチバス類などで、海外からやってきた国外外来種への理解が昔と比べ、格段に深まってきたことです。

その一方で、海外からやってきた水生植物に関しては、オオクチバス類ほど認知されておらず、イベントでもあまり関心がない様子です。むしろ、話を聞いていると「魚類の隠れ場所になって、生物多様性が高くて良いの

では？」という風に話す人もいます。確かに魚類や水生生物の隠れ場所
どもにもなりますが、全てが思う通りに行かないのが現状です。図2は相模
川本流のワンドの画像ですが、この水草の名前はオオフサモという南米
原産の水生植物で、かつて国内では鑑賞用として流通していました。2005
年から特定外来生物に指定され、持ち帰ったり、栽培することが原則とし
て禁じられています。最近では相模川水系、酒匂川水系、多摩川水系などの
主要河川を始め、県内の各河川で分布が拡大傾向にあり、目にする機会が
増えてきました。

オオフサモは大量に繁茂すると、水面を覆うだけでなく、水深が特に浅
い場所では、陸地のようにになってしまい、その場所に生息している水生動
植物に大きな影響を与えます。

自然に親しむ機会が増え、社会的にも生物多様性が認知されてきたこと
は、本当に嬉しいことですが、身近な河川で起こっている問題にも目を向
けて、関心を持って頂き、国外外来種について考えるきっかけとなれば幸
いです。

内水面試験場 非常勤職員 嶋津 雄一郎



図1 相模川で駆除されたコクチバス（上）
とオオクチバス（下）



図2 相模川本流のワンドで繁茂している
オオフサモ